

2024年度
(令和6年度)

紋別市における景気動向調査
<第2四半期>

報 告 書

紋別商工会議所

目 次

I. 調 査 要 領

- 1. 調査時点及び調査対象期間 1
- 2. 調査対象 1
- 3. 回収状況 1

II. 概 況

- 1. 全体の動き 2
 - (1) 今期の業況 2
 - (2) 部会別の動向 3
- 2. 今期の動向
 - (1) 今期の売上高・生産高 6
 - (2) 今期の採算 7
 - (3) 今期の資金繰り 8
 - (4) 今期の在庫水準 9
 - (5) 今期の借入金の金利水準 9
 - (6) 設備投資の実施状況 10
- 3. 来期の見通し
 - (1) 来期の業況見通し 11
 - (2) 来期の売上高・生産高見通し 11
 - (3) 来期の資金繰り見通し 12

III. 各 指 標

- 1. 各指標 12

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 2024（令和6）年10月15日
(2)調査対象期間 2024年7月～9月期の実績および2024年10月～12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス・諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	16社	53.3%
水産業部会	30社	20社	66.7%
機械工業部会	30社	17社	56.7%
建設業部会	30社	23社	76.7%
観光・サービス業+諸業部会	30社	22社	73.3%
合計	150社	98社	65.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－今期の業況は前年同期よりも悪化。次期はほぼ横ばいの見通し－

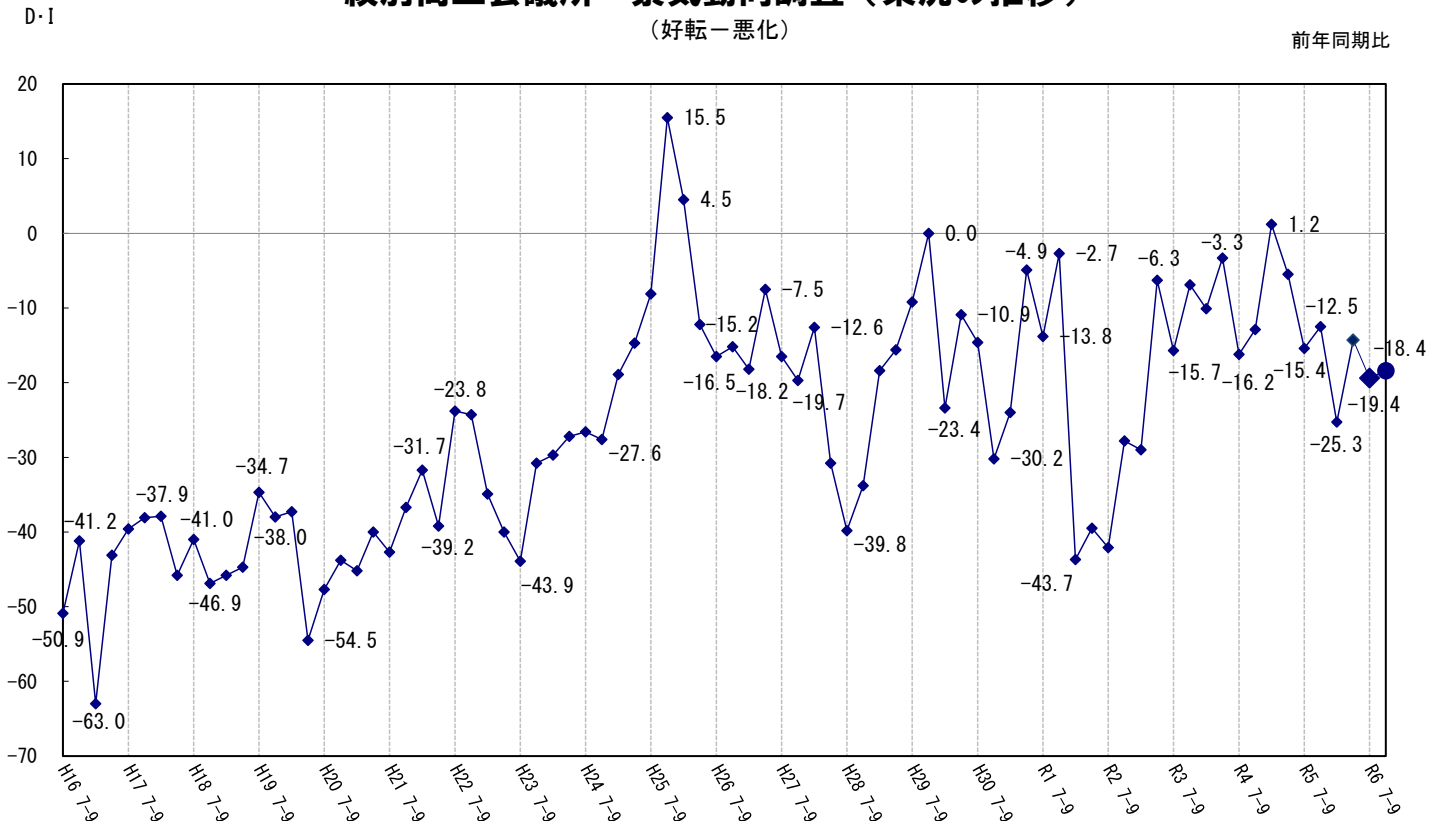
1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2024(令和6)年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比▲19.4となり、前年同期▲15.4から4.0ポイント悪化**となりました。

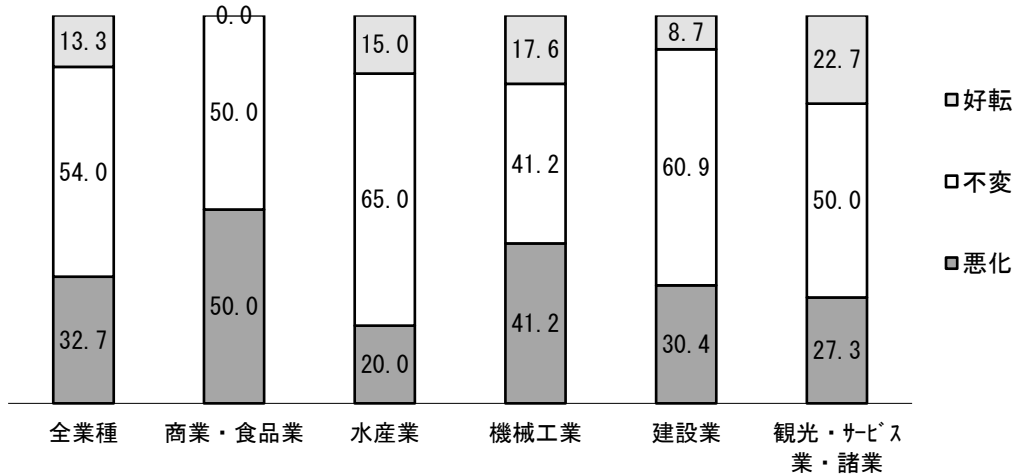
業況判断DIを前年同期と比べてみると、商業食品業[前年DI値▲6.2→今期▲50.0]、水産業[前年DI値▲25.0→今期▲5.0]、機械工業[前年DI値▲33.3→今期▲23.5]、建設業[前年DI値▲10.0→今期▲21.7]、観光サービス業・諸業[前年DI値▲5.9→今期▲4.5]とすべての業種でマイナスの値を示しており、消費低迷かつコスト増の影響を大きく受けていることが伺えます。特に、商業食品業では第一四半期と同様に好転を示す事業所がなく、前年DI値より43.8ポイントの悪化となっており、引き続き苦しい状況が続いていることが伺えます。それに続いて、建設業が材料単価上昇などの影響を大きく受け、前年同期と比べ11.7ポイントの悪化を示しています。しかし、水産業で前年DI値より20.0ポイントの大幅な回復、機械工業、観光サービス業・諸業でも去年のDI値より回復の値を示しており、全体での大幅な業況悪化にはなりません。経営上の問題点は、「原材料価格・材料単価・仕入単価の上昇」「従業員の確保難」が多くなっています。

来期(2024(令和6)年10月～12月)については、業況判断DIは▲18.4と今期とほぼ横ばいの見通しとなっています。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)



今期の業況（前年同期比）



■部会別の動向

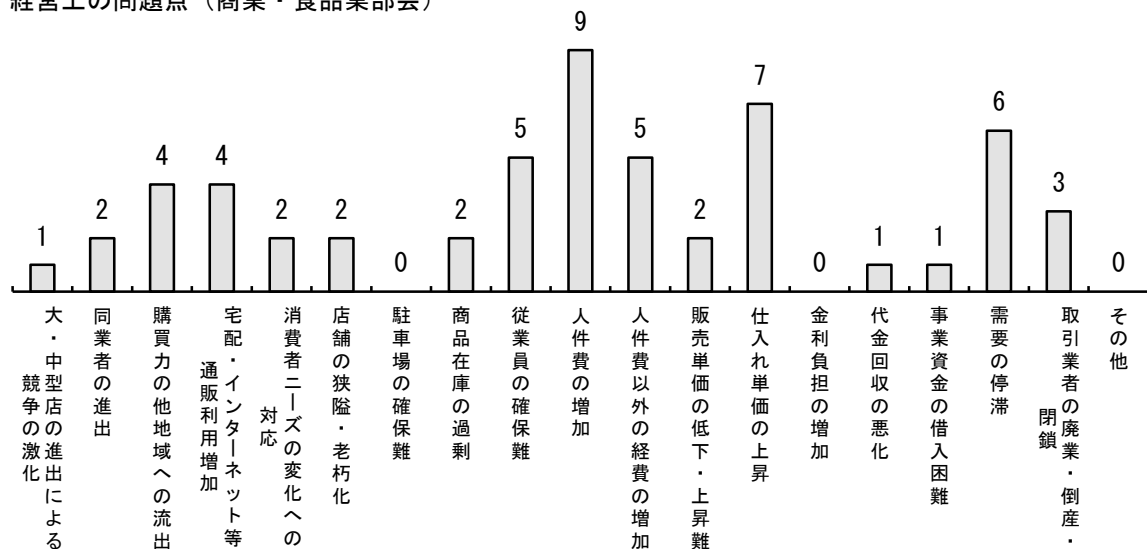
【商業・食品業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲50.0（前年 DI 値▲6.2、来期見通し▲50.0）〕

業況 DI 値（前年同期比）は、前年同期より 43.8 ポイントの大幅な悪化となりました。業況悪化の理由としては、仕入単価、人件費の上昇、市内人口減少に伴っての客数の減少が主な理由として挙げられています。来期は、DI 値▲50.0 と苦しい状況が続く見込みです。経営上の問題点としては「人件費の上昇」、「仕入単価の上昇」、「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 需要の停滞、熟練技術者、従業員の確保難、市内人口減（燃料小売業）
- ・ 客数減、店周辺の人口減（医薬品・化粧品小売業）
- ・ 仕入単価が高くなったため、販売価格も高くなり、売りづらい。（織物・衣服小売業）
- ・ 販売担当者の高齢化に伴い、ニーズ把握と対応にずれが生じる（化粧品・手芸材料等小売業）
- ・ 人口減少による消費の減少、お客様、経営者ともに高齢化が進んでいる（家具・建具小売業）
- ・ 主力商品であるコメの仕入れ業者が一昨年末に廃業し、変更した業者から 1 年ほど安定的に続いたが今年の 7 月ごろからコメ不足になり高価な商品で代替。その後仕入れ商品も品薄、店の営業時間の短縮や店の予約の一部停止、新米が出て高値で使えなかった。新しい業者に変更後は安定するも、コメの先物取引も重なったりで困った状況に。（食料品製造業）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

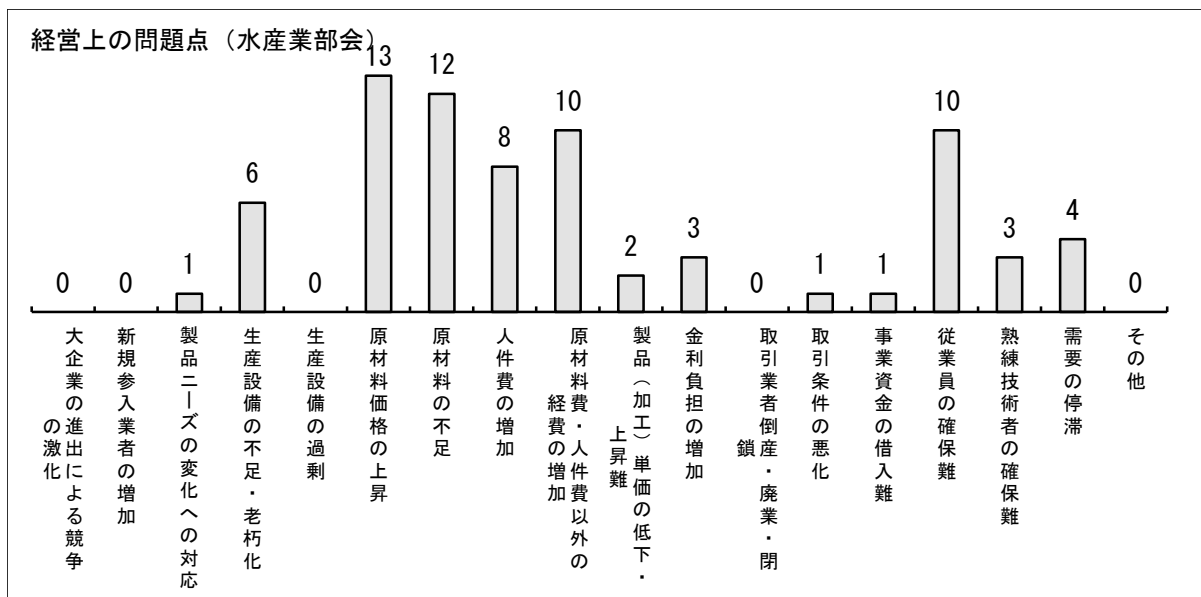


【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲5.0（前年DI値▲25.0、来期見通し▲25.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、20.0ポイントの回復となりました。主力品の一つであるホタテですが、海外への輸出が多くなり、ふるさと納税の返礼品分まで確保できないという声があるなど、原材料不足や価格上昇に苦慮しているようです。また原材料価格は高騰している一方で、消費の低迷により販売価格を下げざるを得ないといった状況の事業所もあるようです。来期は、▲25.0と今期より大幅に悪化する見通しとなっています。経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」「原材料の不足」を訴える声突出して多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・人口減少（水産食料品製造業）
- ・原料確保難（水産食料品製造業）
- ・本州の高温状態、鮮魚需要停滞による販売価格の低下が収益を圧迫している。（鮮魚販売業）

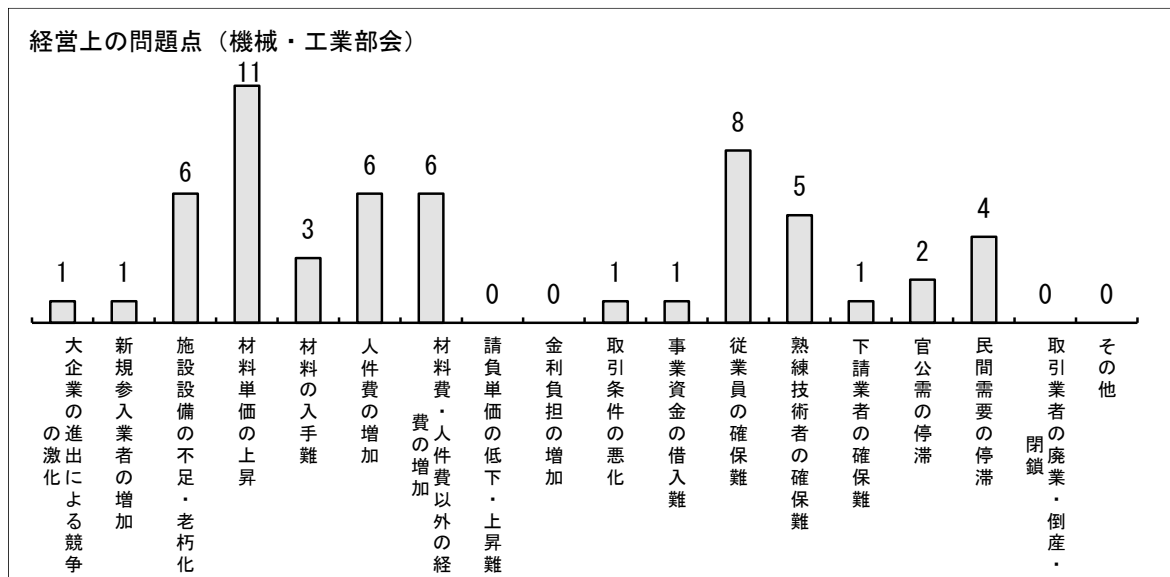


【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲23.6（前年DI値▲33.3、来期見通し▲17.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、9.7ポイントの回復となりました。前年と比べると回復していますが、依然マイナスの値で推移しており、主にエネルギー価格の高騰や材料の値上がりが必要と考えられます。また、従業員、熟練技術者が不足しているとの声も多く、若手育成や経験者採用にも苦慮しているようです。来期はDI値▲17.6と回復する見通しとなっています。経営上の問題点として、「材料単価の上昇」「従業員の確保難」を訴える声が寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・価格競争（値下げ）が続く（梱包資材製造販売）
- ・従業員の高齢化（室内装飾製造業）

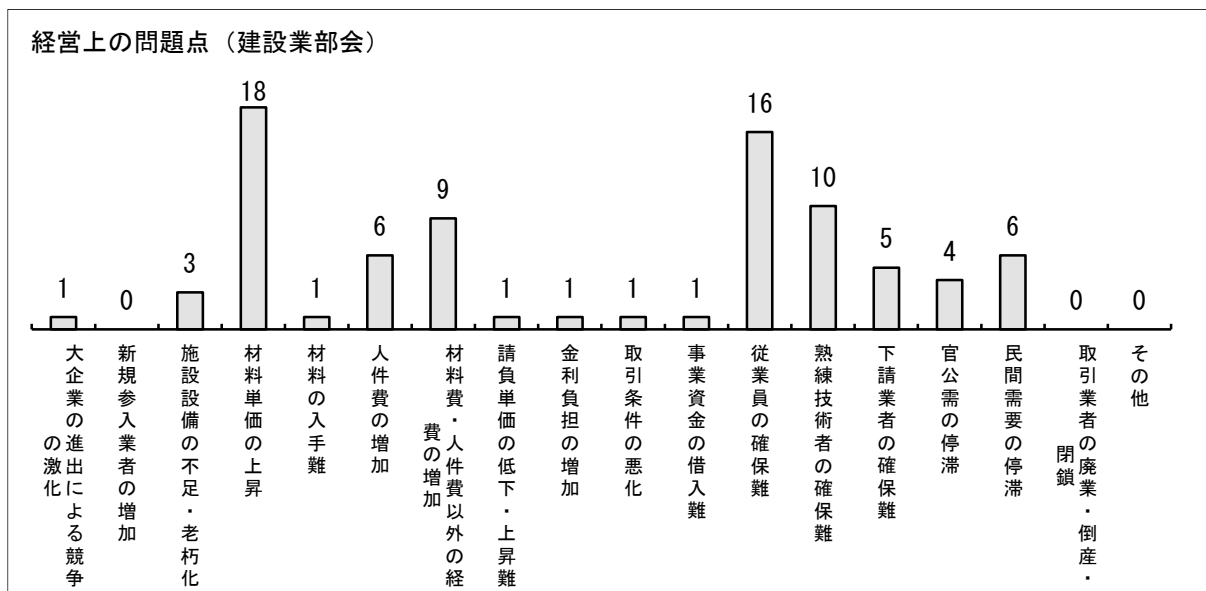


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲21.7（前年DI値▲10.0、来期見通し▲17.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、11.7ポイントの悪化となりました。機械・工業部門と同じく、問題点として材料単価の上昇と従業員・熟練技術者の確保難が突出して多く挙げられており、外国人雇用を視野に入れているという声もありました。来期は▲17.6とやや回復する見通しとなっています。経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 従業員の高齢化、人手不足（土木工事業）
- ・ 来期の見通しが少し不安（内装工事業）
- ・ 人材不足により、建設業界も外国人雇用に対応する準備が必要になると思う。（土木工事業）

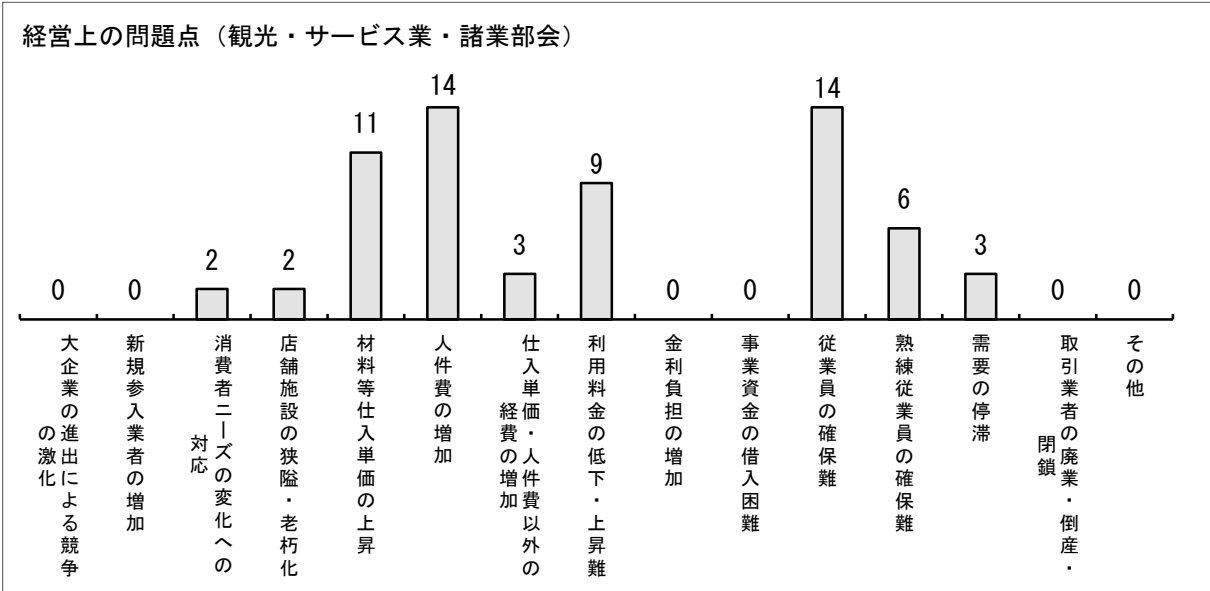


【観光サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値▲4.6（前年同期比）▲5.9（来期見通し▲4.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、1.3ポイントの回復となりました。昨年同期では、居酒屋などのアルコールをメインとして提供する店舗にはまだ客足が戻っていないとの声がありましたが、居酒屋なども客足が戻りつつあるとの声が多く、回復を示す回答が多くなりました。他業種では、最低賃金引上げによる人件費の増加と労働時間の制限や、旅客運送に係る自動車の2種免許や介護などの資格を必要とする業種においての人材確保や高齢化が大きな課題となっています。次期は、▲4.6と今期と同じような見通しとなっています。経営上の問題点としては、「人件費の増加」「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 人件費上昇に伴い、商品への価格転嫁がしづらく利益率が下がっている（飲食店）
- ・ 来年2名の退職あり（飲食店）
- ・ 燃料費、車輛維持費等の経費増大、運賃収益は上がらず。従業員の高齢化と若手の確保が課題（貨物運送業）
- ・ 人手不足。人材育成に力を入れたいが、必須免許等の壁が拍車をかけている（旅客運送業）
- ・ 人材確保難（スナック）
- ・ 高齢化（建物サービス業）
- ・ 最低賃金が上がり、パートの方が働けなくなっている（訪問介護事業）

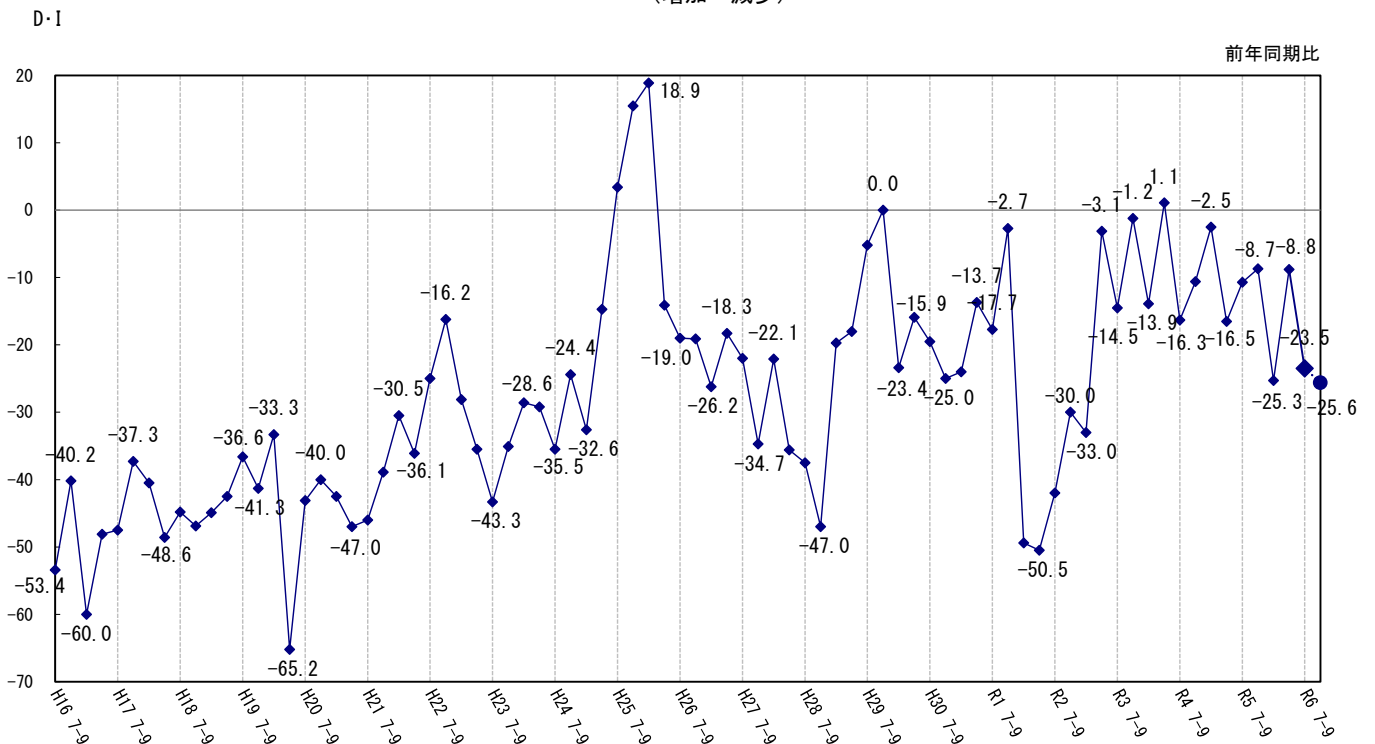


2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

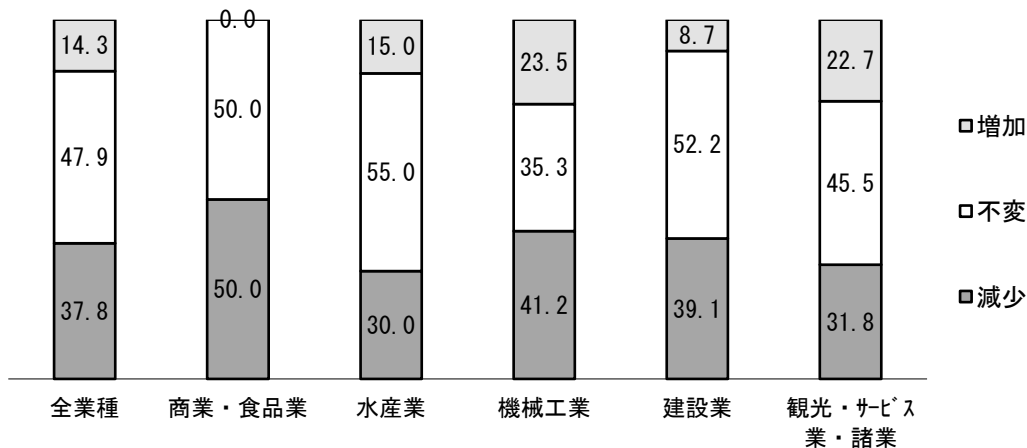
売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



【前年同期比】（2023（令和5）年7月～9月期の水準と比較した今期の売上高）

今期の売上高・生産高（前年同期比）



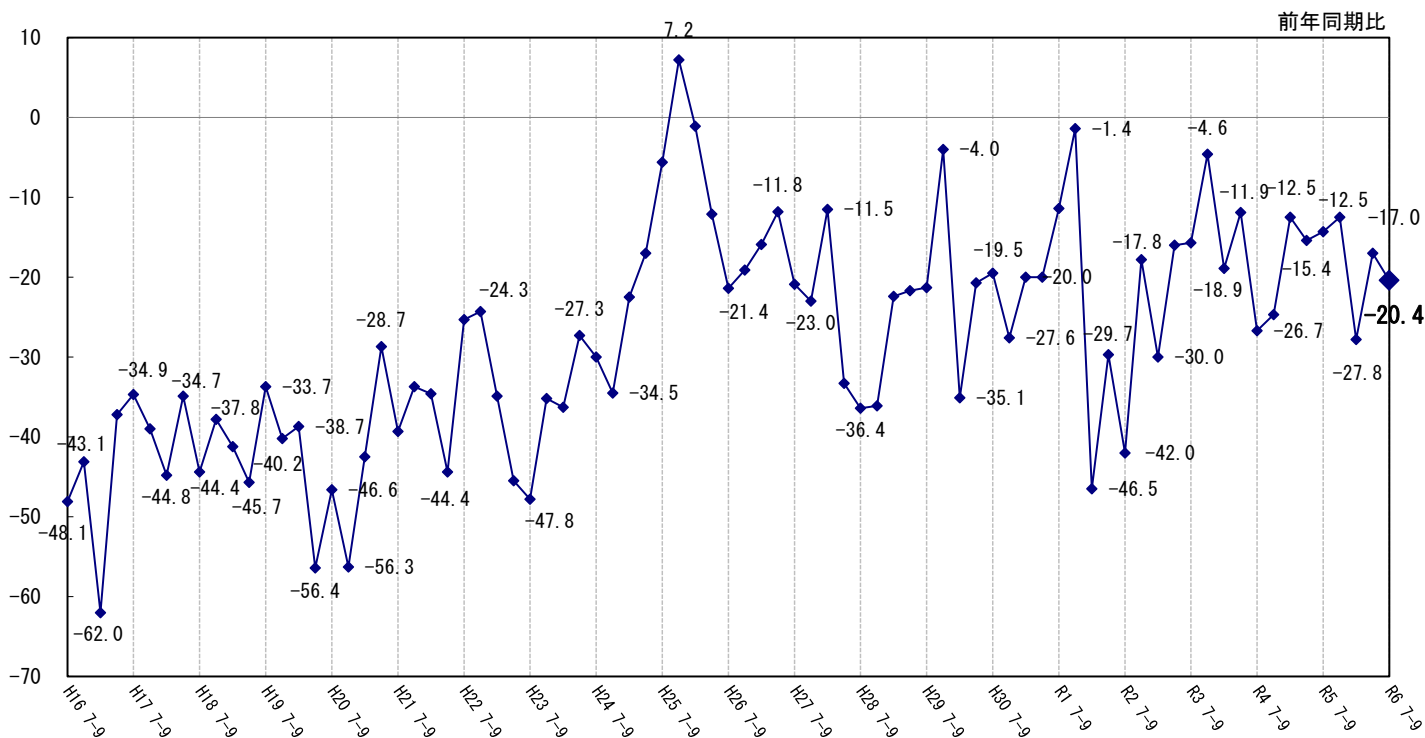
全業種平均でDI値▲23.5〔前年調査時（2023年7～9月期▲10.7）より12.8ポイント悪化〕

〔部会別DI値〕
 商業・食品業〔前年▲6.3→▲50.0〕 水産業〔前年▲18.7→▲25.0〕
 機械工業〔前年▲33.4→▲17.6〕 建設業〔前年5.0→▲4.3〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲5.9→▲4.6〕

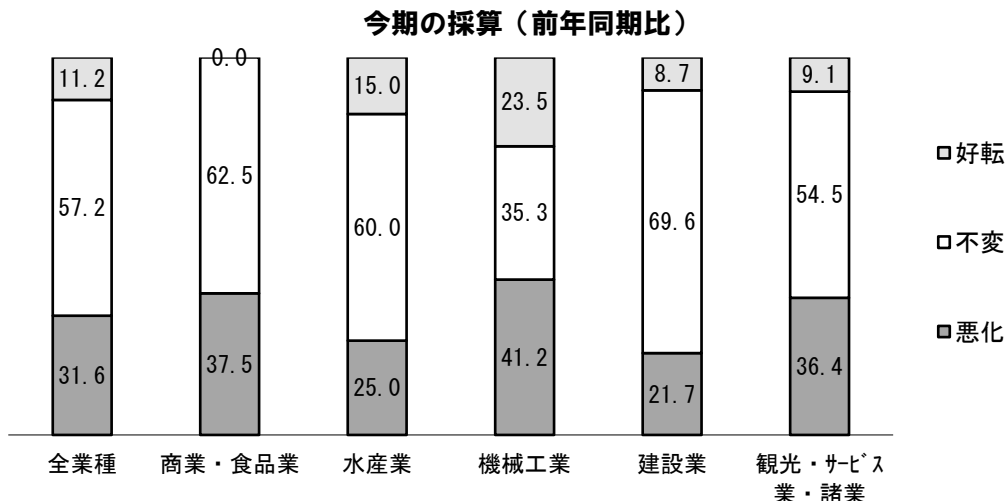
(2) 今期の採算

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字－赤字）



【前年同期比】（2023（令和5）年7月～9月期の水準と比較した今期の採算水準）



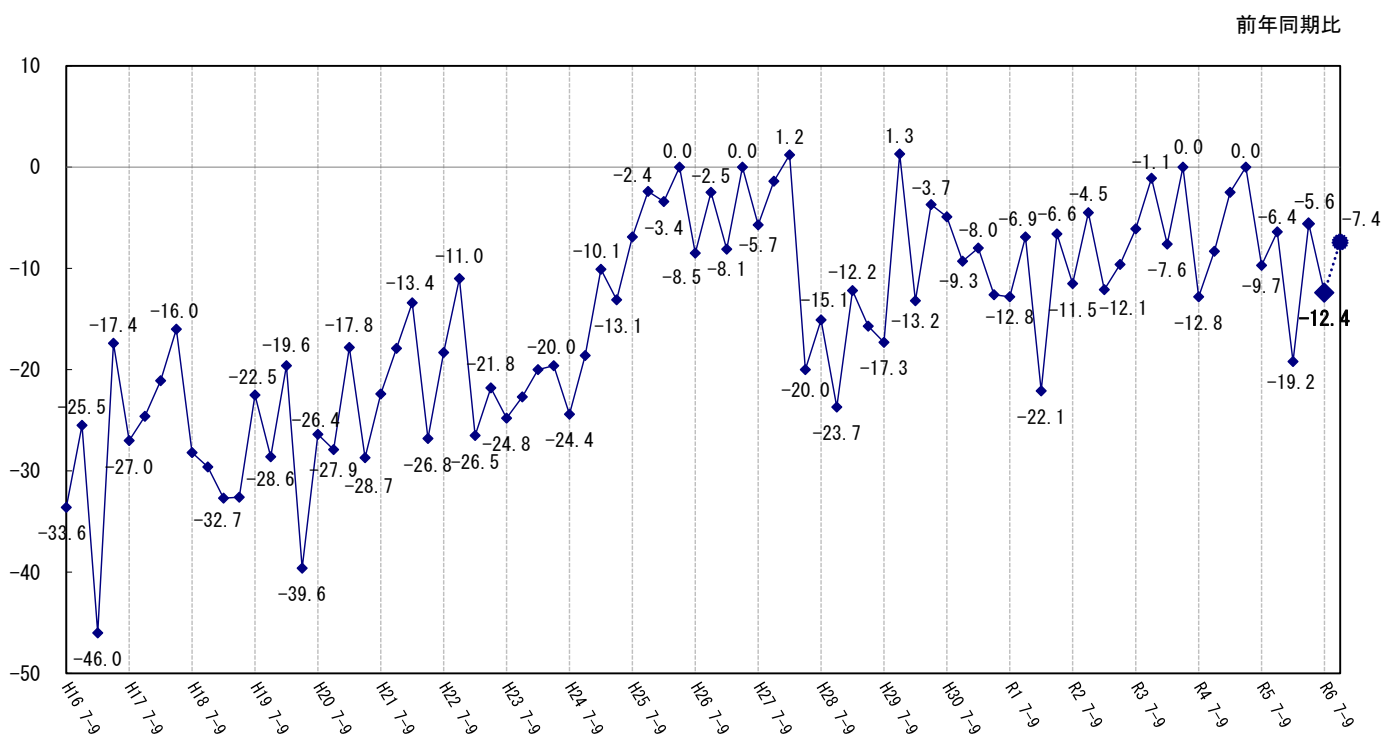
全業種平均でDI値▲20.4〔前年調査時（2023年7～9月期▲14.3）より6.1ポイント悪化〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年0.0→▲37.5〕 水産業〔前年▲31.3→▲10.0〕
 機械工業〔前年▲33.4→▲17.7〕 建設業〔前年5.0→▲13.0〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲17.7→▲27.3〕

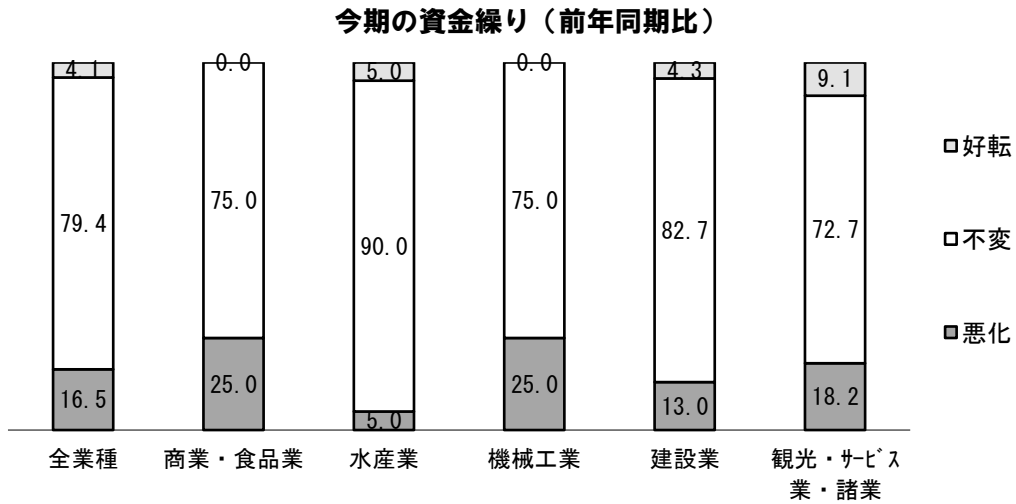
(3) 今期の資金繰り

資金繰り推移（全業種平均D・I）

（好転－悪化）



【前年同期比】（2023（令和5）年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）

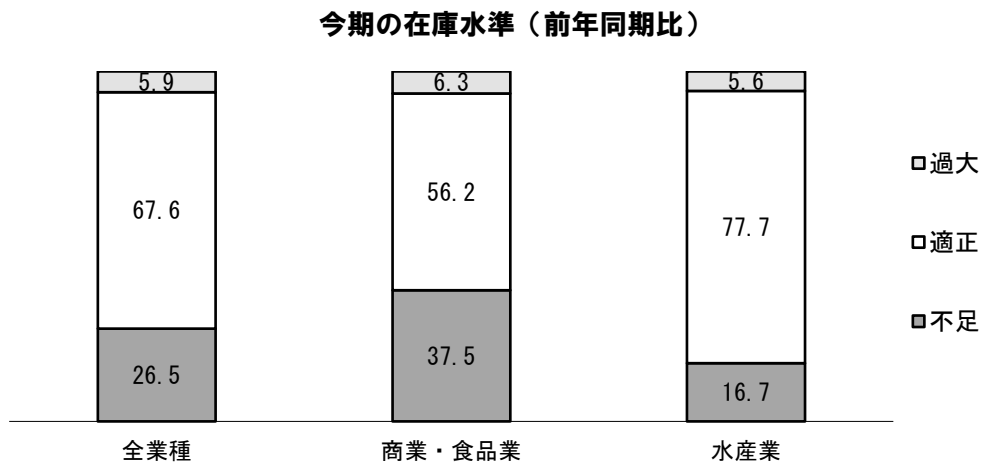


全業種平均でDI値▲12.4〔前年調査時（2023年7～9月期▲9.7）より2.7ポイント悪化〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲18.7→▲25.0〕、水産業〔前年▲6.2→0.0〕
 機械工業〔前年▲15.4→▲25.0〕、建設業〔前年▲5.0→▲8.7〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲5.9→▲9.1〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（2023（令和5）年7月～9月期の水準と比較した今期の在庫水準）



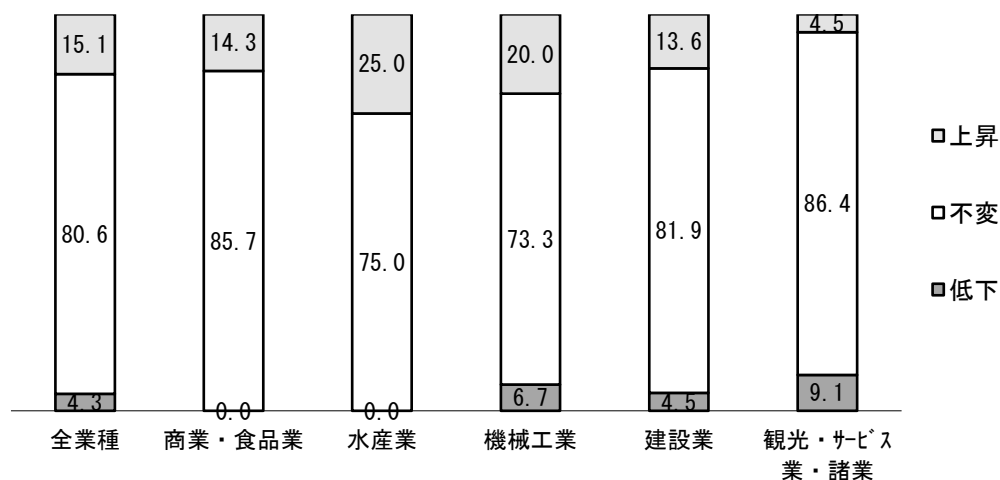
全業種平均でDI値▲20.6〔前年調査時（令和5年7～9月期▲6.3）より14.3ポイント不足傾向〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年0.0→▲31.2〕、水産業〔前年▲12.5→▲11.1〕

(5) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】(2023(令和5)年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準)

今期の借入金の金利水準

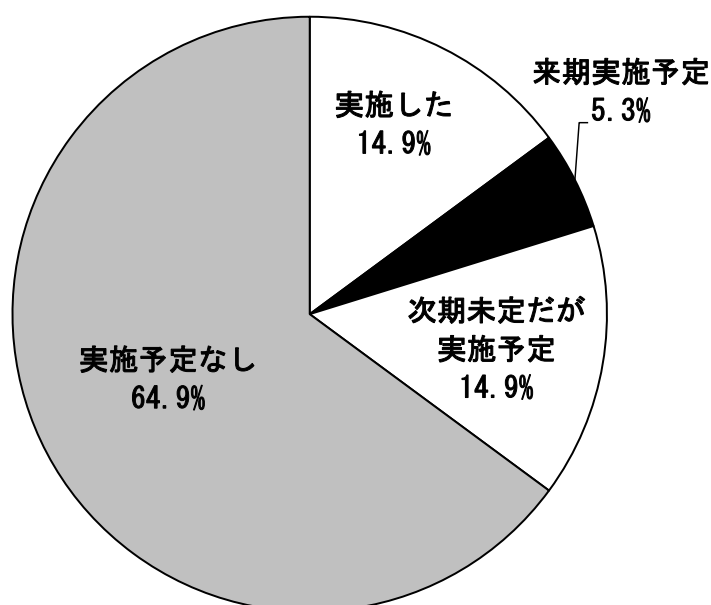


全業種平均で10.8。商業食品業14.3、水産業25.0、機械工業13.3、建設業9.1、観光サービス諸業▲4.6。

(6) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

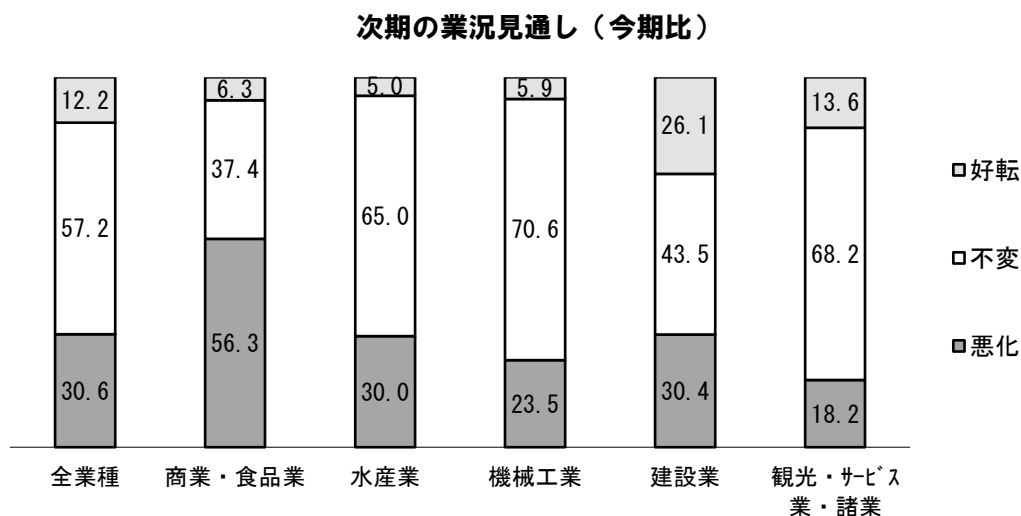
設備投資の実施状況



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況見通し

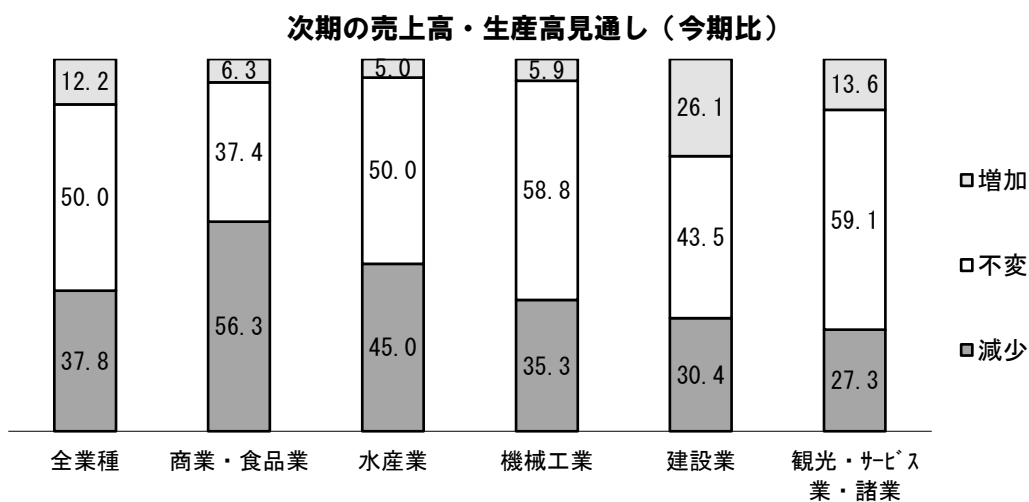
【今期比】（2024（令和6）年7月～9月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値▲18.4 [今期の業況▲19.4 と比較し、1.0 ポイント回復の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高見通し

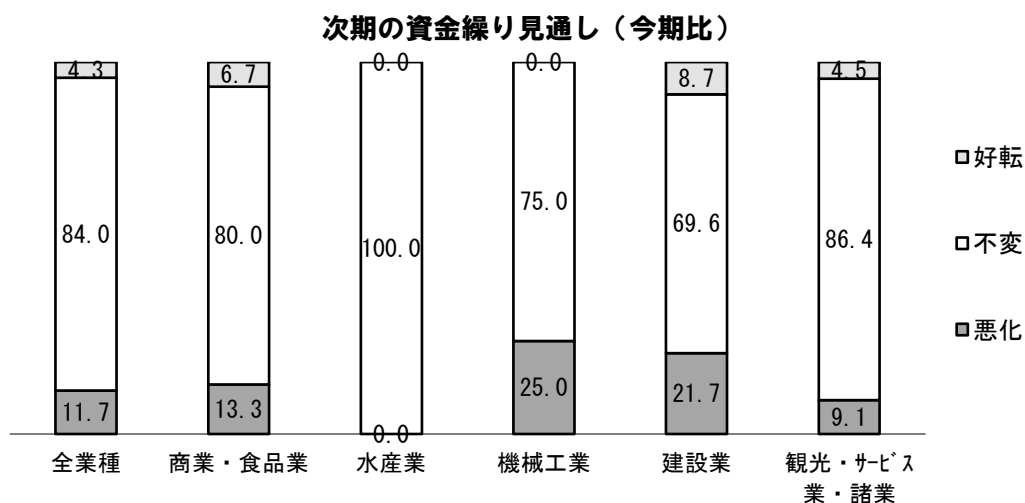
【今期比】（2024（令和6）年7月～9月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値▲25.6 [今期の売上高・生産高▲23.5 と比較し、2.1 ポイント悪化見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】(2024(令和6)年7月~9月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し)



全業種平均DI値 ▲7.4 [今期の資金繰り▲12.4より5.0ポイント回復の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス ・ 諸業
業況判断 D・I	今期実績	▲19.4	▲50.0	▲5.0	▲23.6	▲21.7	▲4.6
	来期見通し	▲18.4	▲50.0	▲25.0	▲17.6	▲4.3	▲4.6
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲23.5	▲50.0	▲15.0	▲17.7	▲30.4	▲9.1
	来期見通し	▲25.6	▲50.0	▲40.0	▲29.4	▲4.3	▲13.7
在庫 D・I	今期実績	▲20.6	▲31.2	▲11.1	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲20.4	▲37.5	▲10.0	▲17.7	▲13.0	▲27.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲12.4	▲25.0	0.0	▲25.0	▲8.7	▲9.1
	来期見通し	▲7.4	▲6.6	0.0	▲25.0	▲13.0	▲4.6
借入金 金利水準 D・I	今期実績	10.8	14.3	25.0	13.3	9.1	▲4.6
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。